

ARPA・K NEWS LETTER

地域計画・建築研究所



八尾空港→仁徳陵を巡回→南河内方面から石川を見て
→応神陵を巡回→八尾空港 写真は仁徳天皇陵の全景

アルパック ニュースレター も く じ

NO.17

- みんなでつくった橋女子大学図書館—その1 2
 - 旧刊新刊書評 ◦「港湾再開発の計画論および実証的研究」 7
 - 巨大古墳を空から見る会顛末記 8
 - 肉の配送センターから自然にできた市場 12
 - まちかど ◦クイズ 高瀬川のマンホール? 14
-

みんなで作った橘女子大学図書館

その1. 成長する学習図書館をめざす

高坂憲治

1986年4月2日、私共で設計・監理して参りました橘女子大学図書館・研究室棟が竣工致しました。そこで、この図書館を通じてめざしたもの、また、現場を沸かしながらみんなで作った図書館づくりの方法を紹介したいと思います。今回は、その1として、この図書館がめざしたものを、図書館の基本構想の立案から基本計画への過程を中心に紹介します。

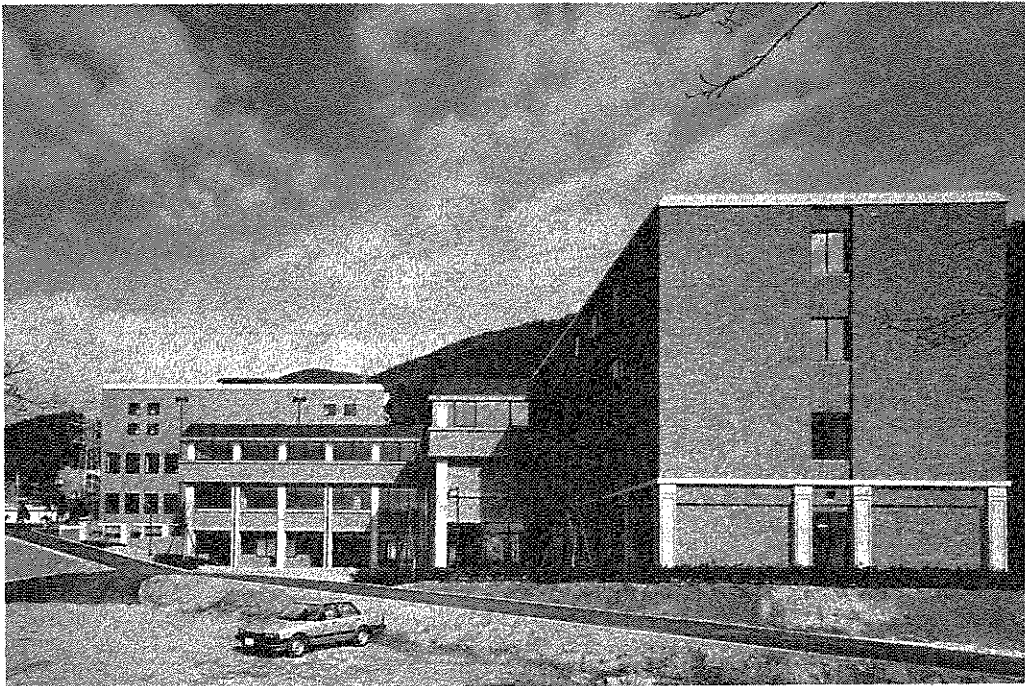
図書館の基本構想

橘女子大学は、京都市山科区の東部、音羽山の麓に位置する、学生数1,200人の4年制単科女子大学です。この大学では、1977年からキャンパス再整備事業に着手し、私共は、そのマスタープランづくり、一般教室棟、体

育館の設計・監理を担当してきました。図書館・研究室棟の建設は、キャンパスの中で3番目の建替え事業となります。

図書館の基本構想は、理事会が学内の総合計画委員会に諮問し、その下で、ワーキンググループとして全教職員の代表からなる図書館・研究室棟建設委員会が組織され検討されました。私共は、この段階から参加させていただき、橘女子大学の図書館について認識を深めることが出来ました。ですから、ここで共に議論した内容は、その後、実施設計・監理にいたるまで私共の目標となっています。

建設委員会では、橘女子大学が必要とする図書館像の追究と同時に、他大学図書館の見学やヒヤリングを積極的に行い、基本構想にフィードバックしました。そして、図書館の



橘女子大学図書館・研究室棟全景

性格を次のように規定しました。

- ① 教育・研究活動を適確に把握しながら、文献・資料の総合的な収集・整理・運用を実施する中で、「情報センター」として積極的な役割を果たす。
- ② 教学との有機的利用を促進させ、“貸出し”・“レファレンスサービス”を重点にし、『学習図書館』としての機能を確立する。

ここで注目すべきことは、当初から学習図書館として位置づけたことです。多くの大学がそうであるように、ここでもやはり『研究図書館』としての位置づけを与えたいという意見もありましたが、教学的環境の整備というキャンパス再整備の一貫した方針の中にこの図書館もあるということを明確にしたものです。

さらに、基本構想は具体的に次のように謳っています。

- ① 現在約 60,000 冊の蔵書を 200,000 冊に増やすキャパシティをもつこと。
- ② それらはすべて、オープンセルフ方式によって運営すること。
- ③ 閲覧席数は学生数の20%約 250 席とする。
- ④ LL教室も含めて、AV (Audio-Visual) 機能を充実すること。

成長する学習図書館をめざす

1年間の議論を踏えて、1984年4月図書館・研究室棟建設実行委員会が組織され、基本構想を具体化し、基本計画、基本設計、そして実施設計に着手しました。そこで私共は、橘女子大学図書館の段階的整備構想(図-1)を提案しました。それは、次の理由によるものです。

- ① 図書館は現在、大きなターニングポイントにある。すなわち、情報の形態、伝達の技術が急速に変化し、一般化されつつある

こと。

- ② 『学習図書館』として、教学と有機的に結合していくために、収書方針を明確にしていく必要があること。
- ③ 限られた敷地条件と、財政的状况から要求される図書館規模と、オープンセルフ方式が要求する規模を統一していく必要があること。

この図式は、この図書館が成長していくもの、自己完結する End File 型ではなく、外部にコミットしていく Net Work 型を志向するものであることを示しています。すなわち小規模の大学図書館が自己完結的に収蔵する書物には自ずと限界があるという認識にたち、現在不足している蔵書を増やしなが

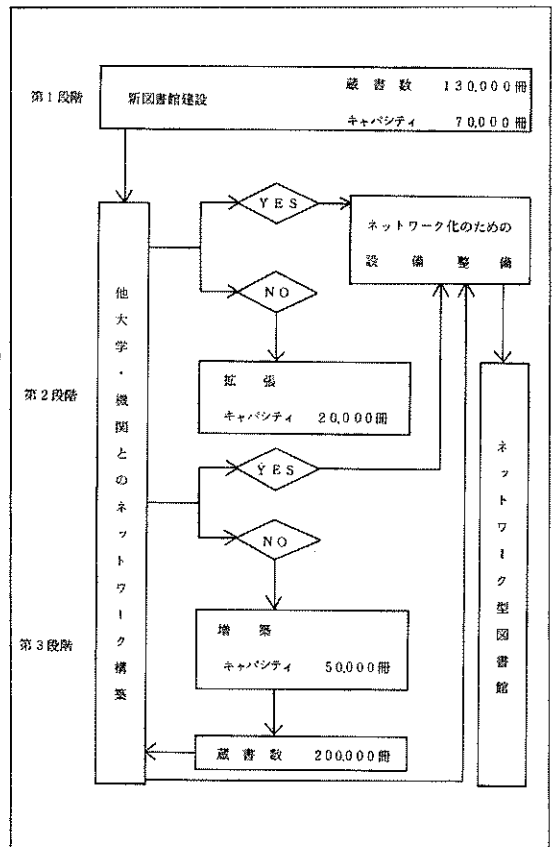
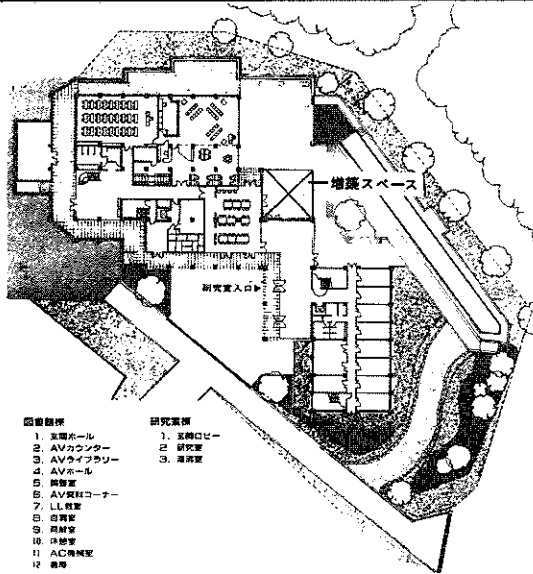


図1. 橘女子大学図書館段階的整備構想



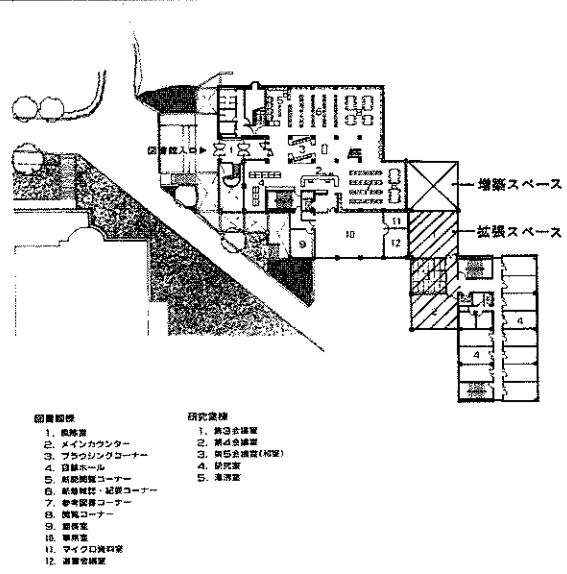
1階平面図

子大学として特色ある収集方針をとり、将来的には他大学と相補的ネットワークを構築しようとするものです。このネットワークによって、1つの大学図書館では収蔵しえない量と質の図書情報を共有しあうことになるわけです。

現在のところ、こうしたネットワークシステムは京都にはありません。(勿論コピーサービスなどはあります)しかし、ハードウェアとしての情報の形態、伝達技術は急速に進歩しており、ネットワーク構築の可能性は高くなっています。また、ヒアリングしたいくつかの大学図書館でも、その必要性が強調されていました。

このような状況を踏まえ、橘女子大学としては、他大学、機関との協力関係をもとに、ネットワークづくりの運動を進めていくこととし、今後10年間をその準備期間と考えました。そこで、当面、10年間の蔵書増加量に対応する量を図書の収蔵量としていくことに決定し、キャパシティ70,000冊、収蔵量130,000冊を今回の図書館規模としたのです。

さらに、この図書館は、研究室棟と一体で

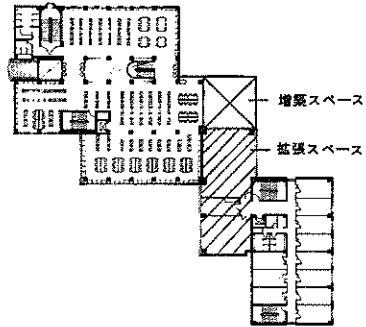


2階平面図

建設されることから、研究室棟部分に図書館が拡張でき、加えて増築をも視野にいたした平面計画・構造計画としました。その結果、拡張スペースで20,000冊、増築スペースで50,000冊の蔵書量を確保し、これらを組み合わせることにより、ネットワーク化の進行ともあわせて、基本構想の目標であった200,000冊の蔵書を可能としています。

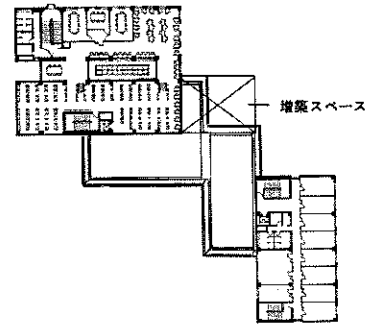
次に建設委員会では、AV機能について議論しています。ここでは、LL教室を含めて学習集団のヒエラルキーと、学習の形態に焦点をあてています。そして図-2に示すように、LL教室、AVホール、AVライブラリーといった3つの空間を考え、それらが相補的に関連するシステムを創出しました。このシステムと空間を総称して「AVセンター」と呼んでいます。

AVホールとAVライブラリーは、図書館独自の企画・運営ができるように、AVの貸出し閲覧をしたり、映画会や、フィルムコンサートを開きます。集団的には、AVライブラリーは、個別のAVブース、リスニングブースによる個人的学習が中心です。AVホー



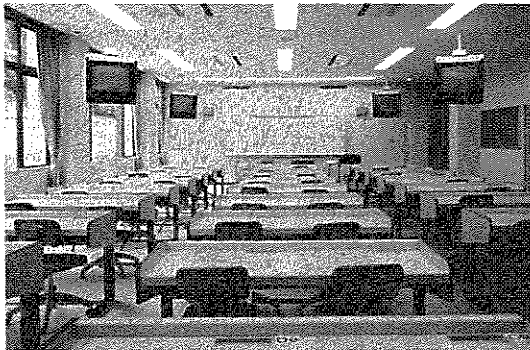
- | | |
|--------------|----------|
| 図書総棟 | 研究室棟 |
| 1. 閲覧コーナー | 1. 第1会議室 |
| 2. 文芸コーナー | 2. 第2会議室 |
| 3. 複製コーナー | 3. 演習室 |
| 4. 大机図書コーナー | 4. 読書室 |
| 5. 雑誌バックナンバー | 5. 演習室 |
| 6. 美術図書コーナー | |

3階平面図

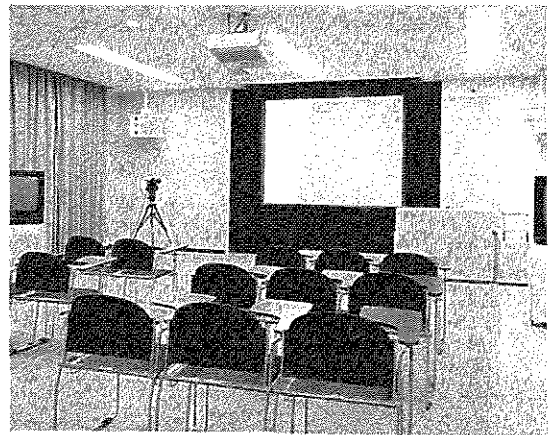


- | | |
|---------------|--------|
| 図書総棟 | 研究室棟 |
| 1. キーホルダーコーナー | 1. 読書室 |
| 2. 閲覧コーナー | 2. 演習室 |
| 3. グループ学習室 | |
| 4. 対応読書室 | |
| 5. 読書情報コーナー | |
| 6. 光廊 | |

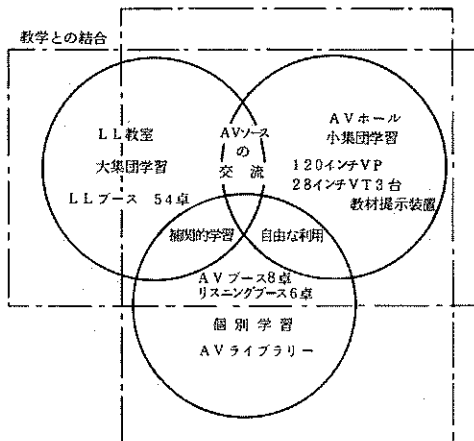
4階平面図



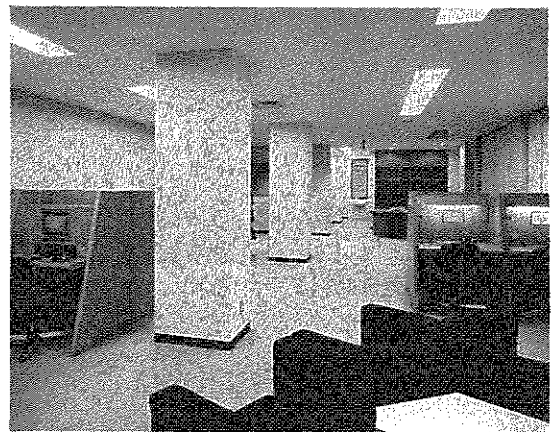
LL教室



AVホール



図書館としての企画運営



AVライブラリー

図2. AVセンターの概念

ルは、グループで学習する場所として、120インチのビデオプロジェクターと、3台の28インチ大型TVモニターをおき、同時に3つのグループが学習できます。その時、相互に音声の干渉が無いように、誘導無線装置を用いて、ステレオヘッドセットでそれぞれの音声を選択、聴くことにしました。

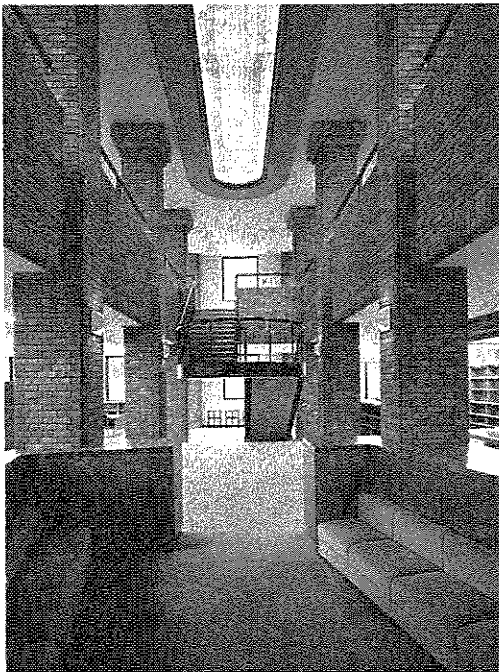
LL教室とAVホールは、教学的利用を中心に、講義の中にとり入れる方針を出しました。LL教室は、大集団で学習し、すでに述べたようにAVホールは、小集団で学習します。この2つの空間はAVソースの交流ができるようになります。講義の中にとり入れるということは、それが積極的に利用されるように機械に対する抵抗感を少なくすることが

重要だと思えます。システムは高度で複雑でも、見かけ上の操作は単純で簡単に出来ることをめざし、基本的な動作はボタン1つでできるように、リモートコントロールを設計しました。

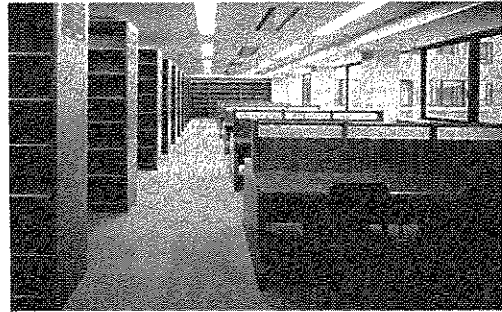
その他、家具は全て木製の家具を設計したり、見出しなどの図書館サインを家具と一体のものとして設計するなど、橘女子大学図書館として統一された学習図書館にすることができました。

今回は、施主、設計事務所、施工会社、そして下請の職人達と一緒にやってつくったこの図書館について御紹介したいと思います。

(こうさかけんじ 京都事務所)



2階 ブラウジングコーナー



3階 閲覧コーナー



2階 メインカウンター

旧刊新刊書評

「港灣再開発の計画論および実証的研究」

金井 萬造

わが国の港灣空間は、運輸省より発表された「21世紀への港灣」でも示されたように、従来の流通機能、産業立地、都市の振興のための基盤整備機能のほかに、より高質な物流空間、産業空間、さらに余暇空間と豊かな生活空間としての整備が求められてきています。

港灣施設についてみると、建設後数十年を経過して、港灣機能の劣化、施設の陳腐化が進み再開発による機能の更新がより強く求められる時代となっています。

上記の著書は、自己の博士論文の紹介であり、手前勝手の非をお許しいただいた上で、内容について簡単に紹介させていただきます。

都市再開発の場合、事業化に向けて多くの方法論が展開されてきていますが、港灣の場合、物流機能を重視するかたちで再開発が進められてきたといえます。このような進展に対して、本書では、老朽化した港灣施設が多くある港灣空間を再編成して、貴重な沿岸域の条件を生かした合理的で望ましい空間に造り変えることとして、捉えてはどうかということを提案しています。

海外の多くの港灣再開発、国内の都市臨海部に対する多くの要請と都市・地域の活性化への役割を考慮するならば、再開発に対して、空間的側面の他に、経済的・社会的側面からの検討と事業のフィージビリティと空間の活性化の担保を明確にすることが、今、求められているのではないかと考えたわけです。

勉強した内容は、再開発の背景と新しい視点の整理をしたこと、また、再開発要因を空間的拡がり、時間的な推移、多くの関係者の

立場で捉え、内的要因と外的要因に分けて定式化を試みました。

再開発の要請としては、機能更新、空間の活性化、環境の創造、安全性の向上、背後地の環境改善と土地利用再編、都市と港灣の一体的整備などが重要であることがわかりましたが、特に、計画対象地区のみの検討にとどまらず、港灣空間全体に関連しているということを痛感しました。

再開発計画論と実証的研究については、国内各地で運輸省や港灣管理者、先生方の御指導を賜った調査研究から、一般的な方法論が展開できるのではないかと考えて勉強を進めてきました。

再開発計画論として、要請把握の重要性和個別計画手法の積み上げが大切であると思いましたが、本書で述べた物流施設、交通施設のみでなく、土地利用や民間活動の活性化について、今後、事業手法などの事業化のフィージビリティを高めるための調査を進めたいと念願しています。

港灣空間は、都市臨海部空間であり、沿岸域空間の一部です。今後、より広い空間からの位置づけと一体的開発整備のための計画論及び基盤整備にとどまらず、上物の建設・経営まで含めた計画論を展開したいと思っています。

最後に本書作成にあたり、恩師である長尾義三先生はじめ多くのご指導をいただいた方々にお礼を申し上げるとともに、今後ともよろしくお願い申し上げます。

(かないまんぞう 大阪事務所長)

巨大古墳を空から見る会顛末記

糸 乗 貞 喜

セスナは春風に乗って

「やみつきになりそうやなあ」——これは巨大古墳を見たことだけではなく、セスナに乗ってみた臨場感に満足した人の言。「こわいことないですか。落ちそうなことないですか」——これは2巡目のセスナに乗る人の言。

30人全員が乗り終るには、1機に1度に乗れるのが3人（操縦士も入れて4人）であるから、4機のセスナで2巡半かかった。とにかく雲ひとつない好天にめぐまれて、全員満足そうな顔つきで終った。

この変なイベントのきっかけは、4～5年

前にさかのぼる。「一度あの世界的な巨大古墳を空から見てみたい」と思い、八尾空港に行き航空会社に聞いてみた。意外に簡単に乗って見ることができることがわかった。また、「空から見た古墳」（別冊歴史と旅、秋田書店刊）というすばらしい本が出ていて、羽曳野市古市の本屋で買って見たりして、いよいよ空から見たいという気が強くなった。しかし、なかなか実現することはできなかった。

河内イメージアップ作戦の企画

今年に入って、大阪府庁の人から「河内の



応神天皇陵の近景

第1回 巨大古墳を空から見る会

- 日時 昭和61年3月21日(祝) 13:00~
 場所 八尾空港内 第一航空(株)集合 TEL 0729-91-2961
 費用 1人/6,000円(予定)
 申込み (株)ARPA・K 地域計画建築研究所 TEL06-942-5732 (糸乗、重本、馬場、藤井)
 申込み締切 3月10日
 備考 ① 当日は悪天候の場合は中止します。
 当日不明の場合は朝10:00~11:30まで、上記TELにいますので問い合わせのこと。
 ② 古墳は応神・仁徳陵などを予定しています。セスナで3人ずつ乗って見る予定。機上時間は約20分。
 ③ 八尾空港の行き方
 (i) 電車 地下鉄谷町線「八尾南」下車 徒歩15分~20分
 (ii) 車 (別図参照)

3月20日

世話人…… ARPA・K 地域計画・建築研究所 糸乗、重本、馬場

切りとり線

巨大古墳を空から見る会申込書

氏名	
所属 (勤務先等)	
連絡先住所 (勤務先)	〒 TEL
連絡先住所 (自宅)	〒 TEL

イメージアップをはかるような企画を考えてみないか」という話があった。モノをつくる話ならともかく、地域イメージを変えていこうというような取組は、民間的な発想で、住民自身が活動するようなことを考えねばいかなのではないかということになった。

たしかに河内のイメージは悪い。全国区レベルというより、世界的なといってもよいような史跡・遺跡がウヨウヨしているのに、なんとなく「ガラが悪い」というようなことで、イメージダウンになっている。これを変えなければならない。

「河内飛鳥の方が大和飛鳥より古いし、規模も大きいじゃないですか。もっと売ればいいじゃないですか」といったら、「大和は史跡だが、こっちは遺跡だから話になりにくい

ですからなあ……」という人もいたが、今は遺跡がドンドン史跡に近づいて来る時代になっている。人も地域も個性が尊重され、心の豊かさが求められる時代になって、これほど個性豊かな土地柄はない。言葉の悪いのも個性のひとつだというぐらいに、居直って考えたらどうだろうかという意見も出た。

ここまで考えてくると、「まず61年度は基本方針・構想と考えて、来年は実施計画をつくって、3年目から実行に移そう」などという“かったるい”（これは広辞苑にのっています）ことでなく、計画づくりの中で一部が実行されていくぐらいのことがあってもいいのではないかということになった。いよいよエスカレートしてくると、計画の年までに、「何かひとつやってみることはないか」とい

巨大古墳を空から見る会（第1回）

ようやく春めいてまいりましたが、皆様いかがお過しのことでしょうか。さて、表記の会を下記の要領で実施致しますのでお知らせします。

記

1. 集合場所は地下鉄谷町線八尾南駅とします。当日（21日）13時前頃から第一航空(株)の車でピストン輸送します。
2. 悪天候の場合は中止ですが、不明の場合は電話（06）-942-5732 アルバック大阪事務所に10時～11時半までにお問合せ下さい。
3. 中止の場合は、23日に順延します。なお、その場合は再度人数を確認しますので、上記に電話にて御連絡下さい。
4. 当日の予定は次の通りです。
 - 参加者が20名を越えていますが、4機予定していますので1時間半ぐらいで終わる予定です。
 - 全員フライトが終わったあとで、「巨大古墳と河内を語る集い」を計画しています。
 - 場所は誉田八幡宮の社務所で15時から行きます。宮司さんも参加して下さい。誉田八幡宮は応神天皇陵の八幡さまです。
 - 八尾からは車に分乗していく予定です。できるだけご参加下さい。
5. 飛行コースは次の通りです。
八尾空港 → 仁徳陵を旋回 → 南河内方面から石川を見て → 応神陵を旋回 → 八尾空港
6. 参加形式は、個々の参加者が第一航空(株)の遊覧飛行に直接申込んだことになります。
7. 保険等は第一航空で一応入っていますが、追加保険は同社が代理店になっていますので当日申し込んで下さい。

3月15日

以上

世話人………ARPA・K 地域計画・建築研究所 糸乗、重本、馬場
（第一航空(株) 担当 藤原 電話 八尾 0729-91-2961）

うことから登場したのが「巨大古墳を空からみる」ことであった。

とにかく飛んでみよう

別掲募集要項のような内容が決まったのは2月末頃、そのときは参加者数がどれだけになるか見当もつかず、世話係の三人だけでも乗ってみようということで航空会社へ申込んだ。「ちょっと古墳を空から見たいんですけど飛んでもらえますか」「1時間2万円です。ちゃんと申込んでおいてもらわんと……」「そんな高いの困る。20分で結構です。一応3月21日午後1時ということでのみです」というような段取であった。急のことでもあり、別に宣伝するわけでもないの、全部で5～6人ぐらいのつもりでいた。

4～5日すると口コミで伝わったために参加申込みが10人ぐらいになったので「10人越すかもしれませんので、1回20分でいいですけど、4回ぐらい飛んでもらわんといいんですが、できるでしょうか」という申込みをしたら、「おたくの事務所はどこにあるのでしょうか」というような見当ちがいのような質問が返ってきた。

今から考えると「ちょっと古墳を空から見たいんですが」というようなことで、本気でフライトの申込みをしているのかどうか、疑われていたような感じもあった。航空会社の人が、私どもの事務所に偵察に来られた時には申込みは25人ぐらいになっていた。そのことを伝えると、航空会社の営業の人は、もう信用を通りこしてビックリしてしまった。つ



このセスナで古墳を見た

まり「こんな営業があるもんですかなあ……」
ということである。

もっと積極的に新商品開発を！

これは正に「観光の新商品開発」であって、われわれは、はからずもその開発をしたことになる。考えてみると、応神陵とか仁徳陵を空から見るということは、世界的な遺跡が眼のあたりに見られるということであるから、いくらか関心のある人なら、東京からでも九州からでも、わざわざ来て見る気になるだろう。

河内、特に南河内というところは、よくよく観光客などを寄せつけないようにできているらしい。たとえば、地元で聞いた話であるが、奈良へ来た修学旅行生が、こちらへもう1泊などということはもちろん不可能で、宿は奈良や大阪であっても観光バスで見て廻ることさえもむずかしいらしい。それは大勢の団体客が昼食をとるようなドライブインがないからだということだ。

だからといって、この第一級の歴史遺産が消えるわけではないので、見たい人は無理をしてもやってくる。奈良へ来た修学旅行の先生や高校生が、奈良のコースをやめて、何人かのグループ（もちろん一人もある）で河内

飛鳥をたずねてくることがあるようだ。おそらく他都市だったら放っておかないような遺産があり、交通条件も、風景も申し分がない。ところが、河内の人から見ると、それは毎日見なれているもので、珍しくも何ともない。観光対象というものは「他所の人に発見されて」はじめて価値の認識が始まるものらしい。地域のイメージチェンジのものがまず発見されるようにすることからはじめねばならない。

南河内全域を見る

古墳を見るセスナでのフライトは、八尾空港から大阪湾方面へ向い、仁徳陵の上で一旋回し、ついで富田林市の上空からPLの塔などを見ながら南下し河内長野市の方へ行った。それから石川沿いに北上し、羽曳野市の応神陵の上で旋回し、柏原市のブドウ畑のビニールハウスを見ながら空港に帰った。

好天にめぐまれたこともあって、こわかったという話もなく、無事に終わった。念の為に、セスナという飛行機は、高度の8倍の滑空距離がもてる機種で、翼がとれるということでもなければ危険なことはいわれていた。

全員が飛び終わったあと、応神陵を御神体とする菅田八幡さんに参った。そこで八幡宅に伝わる国宝を見せてもらったり、八幡様のいわれを聞いたりした。なかなかいい半日コースの学習というか、遊びというか……であった。

空から見たときの感想については書かなかったが、一度自分で空から見ていただきたいと思う。もし御希望があれば連絡いただければお世話したいと思います。当面の考えでは7月頃か、9月頃にでも第2回をやってみたいと思っています。（いとのりさだよし）

肉の配送センターから自然にできた市場

山田 龍雄

北九州市の南に隣接する直方市の国道200号線を走っていると“MEAT”という大きな看板と観覧車が目にはいってきます。

この国道200号線から少し中に入ったところに、現在、九州北部と中国地方にかけて約100店舗のチェーン展開をしている「明治屋産業株式会社」という精肉販売の本社と配送センターがあります。平日はただの配送センターなのですが、土曜、日曜日となると通称“びっくり市”なる配送センターを利用した市場となり、直方・北九州及びその周辺市町村から多くの人が集まってきます。

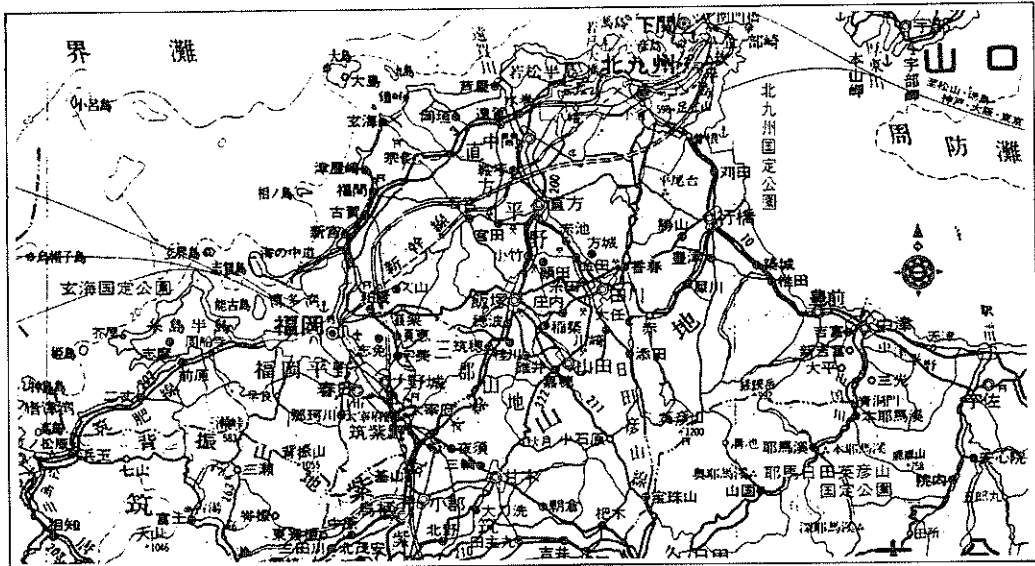
この市場創設の経緯と現在の形態がユニークですので街づくりの何らかのヒントになればと思います。紹介する次第です。

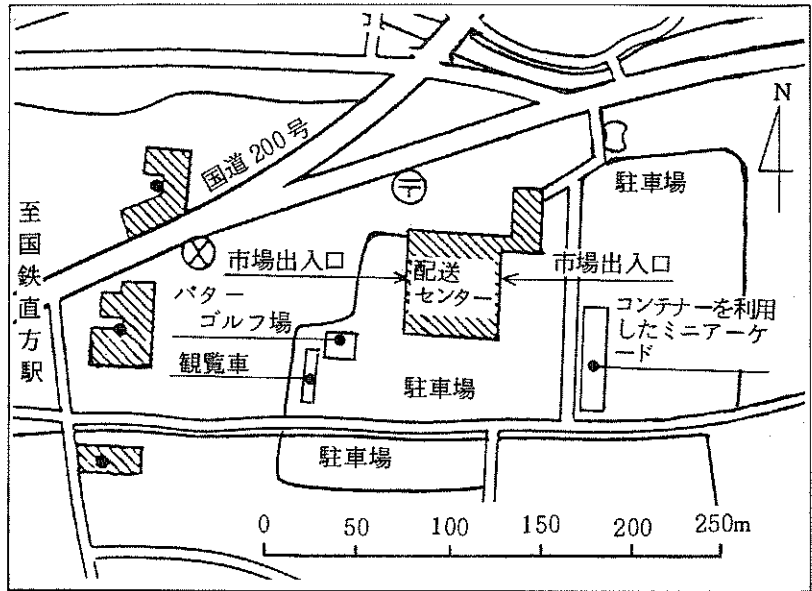
この配送センターは約13年前、本社機能を併せて設立されました。その後すぐ、近くの

婦人団体から直売の要望があり、電話注文だけを受けていたのが口コミで拡がり、2年後には、オープンケース5本程度の肉市が行なわれ、更に、周辺の農家からの要望があり、野菜等も売るようになりました。その後除々にひろがり、約6年前ぐらいに、現在の“びっくり市”なる型ができあがったそうです。

現在、この市場の周囲にはアメリカンスタイルのスーパーマーケットと同様に、約1500台を収容できる駐車場がとり囲んでいますが、設立当時は業務用の駐車スペースしかなく、市場の拡大とともに駐車スペースを拡げ、約6年前には既に600台の駐車場を確保していたそうです。

市場入口近くには観覧車とパターゴルフ場なるちょっとした遊び場もあり、ここで楽しい気分にかけてくれると同時に、すでに財布





“びっくり市”見取図

のひもを弛めるに十分な効果があります。この市は肉市がメインですが、他に70~80の店が集まってきます。場所代は無料ですが、その替わりその分の値引きを義務づけているそうです。また、駐車場の一角にはコンテナを利用したミニアーケードがあり、ここには食料品以外の家庭雑貨、おもちゃ、洋服などの店が約20店程並んでいます。配送センター内は生鮮食料及び飲料雑貨関係、コンテナを利用したミニアーケードは食料品以外の家庭雑貨及び買廻品と、全体のゾーニングも良くできています。

現在、1日の売上げ額は約5000万円前後

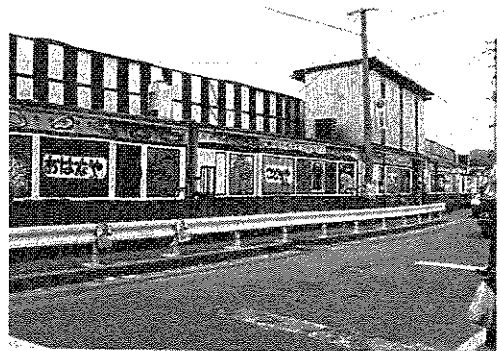


配送センター内の市場

だそうで、客単価1万円としても1日5000世帯がこの市場で買物をしていることとなります。商圈は、地元である直方市近辺が3分の1、残り3分の2は北九州市、飯塚市、田川市等の周辺市町村だそうです。

さらに集客力を高めるため、住宅団地へ2回/日、北九州と直方を結ぶ電鉄の最寄駅へ4回/時の直営バスを運行しています。もし、土曜、日曜日に直方近辺を通る機会がありましたら、ちょっと立寄ってみてはいかがでしょうか。

(やまだたつお 九州地域計画研究所)



コンテナを利用したミニアーケードの外観

まちかど

クイズ 高瀬川のマンホール？

松本 明

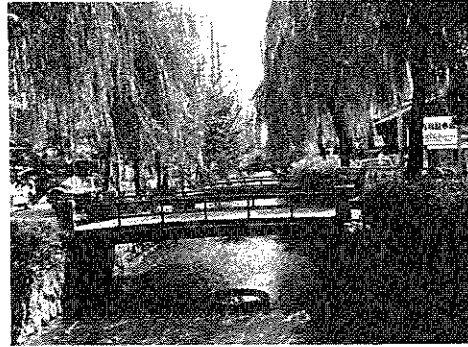
高瀬川は、京都の都心を流れる歴史に満ちた川です。角倉了以によって慶長17～18年(1612～1613)に完工したこの運河は、京都と伏見方面を結ぶ重要な水運ルートとして大きな役割をはたしたことはあまりにも有名です。

二条付近に唯一残された「船入」や、あちこちに残る石碑など、昔の面影をしのばせるものが随所に見られます。

問題

さて、川の中をじっくり見てみると、間隔をおいて、いくつかマンホールのような穴を見つけることができます。(写真2)これはどういう目的でつくられたものか御存知でしょうか。しばし想像をめぐらせてください。

私も答えを聞いて「なるほど」と思いました。もちろん今では無用のものですが、こうした歴史的な資源には、高瀬川に限らず驚くほどの生活の知恵が組み込まれています。歴史的な資源の保全は、こうした先人の知恵に敬服し、その知恵を守ることでもあると思いました。



高瀬川 京都木屋町三条下ル付近



川の中のマンホール？

正解

防火用水として水深の浅い高瀬川の水を利用するための装置だそうです。ここにホースを差し込んで取水するのでしょう。ですからそれほど古いものではないようです。

(まつもとあきら 京都事務所)

ARPA・K (株)地域計画・建築研究所

ARCHITECTS, REGIONAL PLANNERS & ASSOCIATES, KYOTO

本社	〒600	京都市下京区四條通り高倉西入ル立売西町82 (大和銀行京都ビル8階)	TEL (075) 221-5132(代)
京都事務所			
大阪事務所	〒540	大阪市東区石町1丁目1番地 (天満橋千代田ビル2号館)	TEL (06) 942-5732(代)
名古屋事務所	〒460	名古屋市中区丸の内3丁目18番30号 (ツボウチビル6階)	TEL (052) 962-1224
九州地域計画研究所	〒810	福岡市博多区中洲中島町3-3 児島ビル3階	TEL (092) 281-2349
北海道地域計画建築研究所	〒047	小樽市色内1丁目2番19号 通信浜ビル3階	TEL (0134) 29-1109